

くすりの適正使用協議会との共同企画

ワークショップ 4

「有名人の闘病体験報道を評価してみよう！～メディアドクター指標を用いて～」

定員：70名

講師：北澤 京子(医療ジャーナリスト・京都薬科大学客員教授)

嶋田 光希(慶應義塾大学医学研究科 医療政策・管理学教室)

私たちは、健康・医療について日々様々な情報に接し、その影響を受けています。一般市民が頻繁に接触する情報源は、「テレビ・ラジオ」(「いつも接している」「ときどき接している」の合計で 77.5%)、「インターネット」(同 74.6%)、「新聞」(同 60.7%)であり、ウェブメディアを含むマスメディアが主たる情報源です(厚生労働省「健康意識に関する調査」2014)。薬剤師の先生方も「テレビで『〇〇は△△にいい』って言っていたけど、どうなんですか？」などと患者さんから尋ねられたことがあるのではないのでしょうか。

メディアドクター指標は、マスメディアで報道される健康・医療記事の質を評価する指標として、オーストラリアで 2004 年に開発されました(Smith DE, et al. MJA. 2005; 183: 190-3.)。日本では 2007 年に「メディアドクター研究会」(<http://www.mediodoctor.jp/>)が発足し、これまでに 200 本以上の健康・医療記事を評価してきました。

今回のワークショップでは、「著名人のがん体験」を扱った記事を、メディアドクター指標を用いて評価します。そして、メディアドクター研究会の定例会で以前に同じ記事の評価したときの結果と比較します。その上で、薬剤師業務のなかで、健康・医療・医薬品の情報をどう患者に伝えればよいかについて、参加者とともに考えます。